

宮崎県市町村・地域づくり団体協働モデル事業

フォレストピアフットパスで ふるさとつなぎ事業

フォレストピアブロック会議
実行委員会

五ヶ瀬町
企画課
企画調整グループ

事業名：フォレストピア・フットパスでふるさとつなぎ事業

1. 【団体の概要】

フォレストピアブロック会議実行委員会は、西臼杵郡三町と椎葉村・諸塚村・美郷町で活動する宮崎県北の地域づくり団体の連携をはかるための委員会で、事務局は特定非営利活動法人五ヶ瀬自然学校が務める。

2. 【事業の目的、ねらい】

宮崎県北部内陸の山深い中に位置している高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、美郷町、椎葉村、諸塚村には広大で豊かな自然が残っている。人々は代々伝わってきた知恵を使って自然と共生してきた。それには価値があり他ではめったに見られないということで、当エリアは昨年度に「高千穂郷・椎葉山地域」として世界農業遺産に認定された(美郷町を除く)。この事業ではフットパスを通じて「高千穂郷・椎葉山地域」の魅力を地域外へ発信する。

フットパス(footpath)とは、ありのままの自然や田園などの風景を楽しみながら歩くイギリス発祥の文化である。日本では地域づくりの手法として注目されており、北海道や山梨県甲州市などが先進的にコース整備を行った。ブームは徐々に盛り上がりを見せており、現在は全国各地で楽しむことができる。フットパスは自然をゆっくりと満喫するアクティビティなので「高千穂郷・椎葉山地域」の魅力を感じてもらうのにはちょうど良く、その上、地域活性化を促す可能性までも秘めている。

第一に、フットパス利用者は一般的な観光客よりも地域への滞在時間が長い傾向にあるという点。車や電車を使わず、自分の足でゆっくりと歩いて風景を楽しむものだからである。滞在時間が長くなると、飲み物を購入したり食事をしたりと地域へお金を落とすようになり、地域経済が活性化する。

第二に、地域に観光的価値を付加するという点。美しい棚田や古くから信仰を集める集落のお堂など、文化としては優れているが観光という観点では見向きもされなかったものにスポットライトを当て、その価値が分かる人間を誘致するツールがフットパスなのである。そして、違う価値観を持った観光客が訪れると、地域の住民たちは自分たちが有する文化の価値を再発見する。日常的にフットパスコースが利用されるようになれば、住民はおもてなしの気持ちから町の環境整備に取り組むようになる。

第三に、地域住民をフットパスガイドに任用できるという点。フットパスはマップを頼りに一人で散策してもいいが、有料のガイドをつけることで地域の文化や習わしをより深く知ることができる。そのガイド役を定年後の住民に仕事としてお願いすることで、僅かながら雇用を生むことができる。特別な技術は必要なく、数キロ歩いて地域のことを知ってさえいればいいので、多くの人が登用の対象となる。観光客と地元ガイドの間に運良く交流が生まれれば、参加者側としては再来の気持ちが芽生え、迎え入れる住民側にも生き甲斐が生まれるといった効果がある。

フットパス導入は上記のように多大なメリットを地域にもたらす。しかしながら今現在の日本にはフットパスが浸透しておらず、市場規模の小ささが課題となっている。本事業ではイベントを積極的に開催し、まずはフットパスの認知度向上を図る。次に各集落をネットワーク化し広域での連携体制を整え、最終的にはエリア一丸となって地域の魅力を発信し地域活性化に繋げていくことが狙いである。

3. 【活動内容】

高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町、椎葉村、諸塚村、美郷町の宮崎県北6町村をまたぐフットパスイベントの企画、コース整備、マップ作成を行った。歩いて集落の文化を感じられる場所であること、地域で暮らしているガイドが確保できること、住民の理解が得られていることをコース選定の条件とした。

イベントの前には地元住民を交えてフットパスワークショップを実施した。協力者である地元ガイドを中心に参加を呼びかけて、集落を散策しながら意見交換を行い、序に看板設置、草刈り等のコース整備を行った。

ワークショップで得た意見を参考にして、高千穂町五ヶ村・秋元、日之影町深角・鹿川、五ヶ瀬町土生・桑野内・笠部・祇園、諸塚村七ツ山、美郷町宇納間にてフットパスイベントを開催。事前にホームページやソーシャルネットワークサービス、チラシで参加者を募り、イベント当日は参加者、地元住民、スタッフ2名でフットパスコースを散策した。お昼は地元食材を使ったオリジナルのフットパス弁当、あるいは地の物を提供する農家レストランで食事交流会を開いた。参加者には地域住人が選んだ名産品をお土産として渡した。

上記のようなツアーイベントを開いた他にも、子どもキャンプや子育て支援のイベントのプログラムにフットパスを取り入れたり、そば打ち

体験とフットパスを組み合わせたイベントを開催したりと、フットパスを浸透させる取り組みをした。

また、広報用にフォレストピア・フットパスのフェイスブックページを作成し、来期から行うプライベートツアーの予約窓口としてホームページを開設した。ツアーについてはレジャー情報サイトと連携して参加者の募集を行っていく。

4. 【事業の成果、効果】

●全体会議について

【会議の様子】



深角地区団七の館



推進員全体会議

本事業の協力者とスタッフで、フットパスをどう地域づくりに活用していくか意見交換を行った。フットパスに普段から慣れ親しんでいる訪日外国人に向けてアピールする、山菜や柚子など地域に既にある資源を活用するという意見が出た。

●ワークショップについて

【一連の流れ】



住人を交えてコース散策



看板設置



昼食提供の仕組みづくり

地元住民によるガイドのもと、フットパスコースを散策した。実際に歩くと「コースの一部が単調で疲れる」「工事の都合でルートを変更しなければならない」などの問題点が浮かび上がり、本番に向けての良いリハーサルとなった。住民と一体となってイベントを作り上げるために、

看板設置、昼食メニュー及びお土産決めも併せて行った。ワークショップ参加者だけでなく、すれ違う住民にもフットパスの説明を行うことで、地域への浸透も図った。エリア内でも特に雄大な自然が残る7つの集落でワークショップを行った。

●フットパスツアーについて

【宮崎県五ヶ瀬町鞍岡・桑野内・三ヶ所初秋のフットパス交流ツアー】



三ヶ所宮野原フットパス

地区住民と参加者の交流

地元食材を使った弁当

五ヶ瀬町内を散策するフットパス交流ツアーを企画した。9月17日(鞍岡コース)、18日(宮の原コース)、19日(桑野内コース)の計3日で募集をかけたが、17日は申し込み無しのため、19日は台風16号の影響で中止。唯一開催できた18日も雨は降っていたが、雨具を用いて催行した。

フットパス散策後は地元の住民も招いて盛大な昼食交流会を開き、最後には五ヶ瀬の新米をつかみ取りでプレゼントした。黄金に実った棚田を眺めて花を愛でる、秋を感じられるツアーになった。

今回の催しで五ヶ瀬町の魅力を知り、以後のそば打ちイベントやフットパスイベント、町そのものに興味を持った県外の参加者がいた。狙い通りの理想的な流れを生み出したため、手法としては間違っていないことが分かった。

【秋づく世界農業遺産の里を歩いて巡る フォレストピア・フットパス】



日之影町鹿川フットパス

五ヶ瀬町土生フットパス

高千穂町秋元フットパス

10月中旬から11月の初旬、紅葉の時期に合わせて広域フットパスイベントを開催した。高千穂町より五ヶ村地区・秋元地区、日之影町より鹿川地区・深角地区、五ヶ瀬町より土生地区、美郷町より宇納間地区、諸塚村より七ツ山地区と、ワークショップを行った以上の7集落で実施する本事業のメインとも言えるイベント。前回の反省から広報に力を入れ、延岡を中心とする体験交流の催し「ひむかのくにえんぱく」のプログラムとして本イベントを登録することで、多数の目に触れるようにした。

参加者から集計したアンケートによると、高千穂郷・椎葉山地域を散策してみたかったという申込みの動機が多く見られた。世界農業遺産に認定されたこともあり、当エリアに興味を持っている人は一定数いると思われるので、その人たちを受け入れるためにフットパスを活用していきたい。また、地元住民による案内付きのフットパスは評判がよく、会話が楽しかったとの声も多く聞かれた。

高千穂のコースはその知名度から参加者が多かったが、それ以外のコースは集客が芳しくなかった。次回からは地域の魅力が伝わるように、写真を大きく使うなどのわかりやすい広報を心がける。

本年度3月から、今回得た反省を取り入れてフットパスのプライベートツアーを企画して事業の継続を図る。フォレストピア・フットパスホームページ・フェイスブックページを運営し、好きな日程で参加できる個人のツアーの予約を受け入れられるようにする。運営するホームページの他にも「そとあそび」や「じゃらんネット」などのレジャー情報サイトを活用して、更なる集客を見込む。

●フットパスを取り入れたイベントについて

【子どもキャンプ+フットパス】



フットパスは教育にも有効



虫捕りや木の実拾い



五ヶ瀬町笠部集落の大檜

1 1月頃に行われた子どもキャンプでフットパスを行った。子どもとフットパスの親和性は高く、自由にコース上を駆け回り、虫を捕まえたり木の実を拾ったりしていた。学校教育のプログラムとしても可能性を感じられる。

【そば打ち体験＋フットパス】



三ヶ所宮野原フットパス

蕎麦打ち講習

打った蕎麦で昼食と交流

職人を招いた本格的なそば打ち体験会とフットパスを組み合わせたイベントを開催した。そば打ちとフットパスのどちらも好評で、桜の咲く頃にまた来たいという感想を聞くことが出来た。

今後はそば打ちのみならず「山菜採り＋フットパス」や「溪流釣り＋フットパス」というような形のイベントも模索していきたい。

5. 【まとめ】

本事業で様々なイベントを開催することで、フットパスの認知度向上に寄与できたように思う。また、フットパスをきっかけに高千穂郷・椎葉山地域の魅力をアピールすることもできた。来期からも春と秋の行楽シーズンにイベントを続けることで、更なる浸透を狙う。

本事業で手応えのあったコースについては、3月までにプライベートツアーの予約窓口を設ける。ガイドをお願いできる地元住民が確保できていないなど、問題を抱えるコースについては、ガイド養成講座を開くことで解決を図る。

今回は手が回らなかったが、フットパス文化が盛んな国からの旅行者にも、日本でフットパスが楽しめるということをアピールして、更なる盛り上がりにつなげていきたい。具体的には、民宿にフットパスマップを設置する、英語版のホームページを用意する、といった策が考えられる。